

第22回宇宙民生利用部会 議事要旨

1. 日時：平成30年10月19日（木） 14：00－15：30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

（1）委員

中須賀部会長、白坂部会長代理、石田委員、岩崎委員、高山委員、仁藤委員、林委員

（2）事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、高倉参事官、須藤参事官、滝澤参事官

（3）陪席者

国土交通省 国土政策局 信太地理空間情報活用推進官

国土交通省 国土地理院 吉田地理空間情報企画室長補佐

内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室 谷本参事官補佐

内閣府（防災） 有村防災情報通信システム官

（4）発表者

リモート・センシング技術センター ソリューション事業第二部 向井部長

4. 議事要旨

（1）準天頂衛星システムの最近の状況について

□内閣府から資料1－1に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○本システムはリージョナルな測位システムではあるものの、他のグローバルな測位システムだけで世界標準が決まってしまうようなことがないよう、世界に働きかけていくことが重要である。

○海外での利活用を進めるための取組も重要である。ASEANマーケットを狙うなら、受信機価格の低減が鍵となる。

○受信機の価格が下がり測位ビジネスが軌道に乗るまでは、宇宙関係予算だけではなく産業振興予算等をうまく活用しながら後押しできるとよい。

○受信機普及は、宇宙ビジネスの拡大の観点から重要。受信機の販売を開始されたことがあまり認知されていないので、内閣府ホームページ等を通じて周知を進めて欲しい。

（2）準天頂衛星システム開発におけるJAXAとの連携強化について

□内閣府から資料1－2に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○我が国は測位専門家が少ないため、JAXAも巻き込んだしっかりとした研究開発体制を持たなければならない。

○技術開発は凄いスピードで進んでいるため、アップデートしながら最新の技術を取り入れて推進することは重要である。その意味でJAXAが研究開発の立場で関与することは必要である。

○サービス開始後はユーザーのフィードバックがあるため、逐次これをシステムに反映していくこともアップデートの視点として重要である。

(3) リモートセンシング衛星とユーザーニーズについて

□リモートセンシング技術センター、内閣府から資料2-1、2-2に基づき説明を行った。委員からは以下のような意見等があった。(以下、○意見・質問等、●回答)

(リモートセンシング衛星のあり方に関して)

○オープン＆フリーのモデルと、データ販売事業者を育てるモデルが併存しうるのが疑問である。国際的に見て無償と有料の段差を設けているモデルはあるものの、工夫する必要がある。

○この際、「すべてのデータがオープン＆フリーとなる前提で成立するビジネス」という視点も必要な時代ではないか。

○有償モデルであっても、災害の際だけは無償で使えるような枠組みの設定も大事である。

○リモートセンシングのユーザーは安全保障ユーザーが中心となっており、想定よりマーケットの広がりが鈍く、健全なバリューチェーンとなっていない印象もある。

○「アクセス性がよく、データが揃ったプラットフォーム」というスタイルが今後の流れであり、そこでどのようなビジネスモデルを作れるか考えるべきではないか。

●データはなかなか揃わないもの。どのようなデータが不足しているのか、という情報も有用。

○低軌道での軌道上サービス検討や、オンボード処理技術等、「リモートセンシングを支える技術」の議論も重要ではないか。

以 上